生田図書館員出張講義

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学図書館紀要編集委員会 公開日: 2012-01-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 豊満, 朝子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/11338

生田図書館員出張講義

豊満　朝子*

1　経緯

生田図書館が理工学部機械工学科で出張講義を始めたのは2006年からである。機械工学科の黒田先生から「情報処理2」(2007年からは「情報処理1」でも実施。)という授業の初回で、図書館の活用法を講義して欲しいという依頼があった。低学年における学習図書の活用、高学年・大学院における文献検索への取組みなど、図書館を積極的に活用し研究を行う上で様々な検索ツールを使いこなせるようになって欲しいというのが目的である。

2　実施記録

2006年4月12日　情報処理2　理工学部機械工学科2年生
2クラスのため生田図書館員2名が対応。
2007年4月11日　情報処理2　理工学部機械工学科2年生
1クラスのため生田図書館員1名が対応。
2007年9月25日　情報処理1　理工学部機械工学科1年生
2クラスのため生田図書館員2名が対応。

*とよみつ・あさこ／明治大学学術・社会連携部図書館事務室生田図書館グループ

3　講義内容

学部間共通総合講座のひとつである『図書館活用法』を生田でも後期授業で行っている。全 14 回程度で教員と図書館員がそれぞれのテーマで講義をしているが、主に職員は実際の図書館利用の仕方を実習など交えて教えている。授業準備としては、その『図書館活用法』のレジメをベースにすれば良いと初年度は考えていたが、いろいろ工夫が必要だった。

3.1　2006 年度

2 年生を対象にしていたため蔵書検索システム（以下、OPAC）の基本的な使い方は理解していると考え、OPAC の復習とポータルサービス（予約や他地区からの取寄せサービス）の使い方、論文の探し方、新聞情報の検索の仕方などを中心とした。『図書館活用法』ではこれらの項目については、「図書情報の探し方 (1)」「図書情報の探し方 (2)」「新聞・雑誌情報の探し方 (1)」「新聞・雑誌情報の探し方 (2)」の 4 回分で教えている。そのため、出張講義の 1 回の授業で教えるのはとうてい不可能である。『図書館活用法』のレジメをどんどん削っていくが、やはりあれもこれも説明したいとなり、どのレジメを残すかでかなり悩む。また、理工学部なので論文の探し方では「JDreamII」（科学技術文献速報の Web 版）は必ず説明したい。ただ、この DB は同時アクセス数が「20」と決まっており授業の中で全員が実習することができないのが難点。「NDL-OPAC」（雑誌記事索引検索）もあるのだが、やはり科学論文検索には収録情報が少ない。国内最大の雑誌・論文情報 DB「MAGAZINEPLUS」（日外アソシエーツ）も外せない。新聞系 DB である「聞蔵 II ビジュアル」（朝日新聞）は人気のある DB なので、是非、覚えてもらいたい。教えたいことはたくさんあるのに時間がない、という危機感がレジメ選別の段階ではまだ実感していなかった。

授業当日、もう一人の図書館員 O さんと 2 クラスに分かれて授業が始まった。「情報処理 2」の授業の一コマなので『図書館活用法』とは受講している学生の雰囲気が違う。指導教員もついているので、真面目に聞いている学生が多い。OPAC の復習から説明を始めるが、簡単に説明しようと思っていても丁寧に説明してしまう。実は、私事だが、学生の前で授業を

するのはこの時が初めてであった。2006年の後期に『図書館活用法』の授業を担当することになっているが、どうしても用意していたレジメどおり進めてしまい、途中で短くするなどアドリブができない。時間ばかり経過していくことに焦りを覚えつつも、論文の検索の仕方に入ったのは、授業も半ばを過ぎた頃で完全に予定時間をオーバーしていた。JDreamIIの利用方法を何とか説明し、新聞系DBに辿りつく頃には残り数分しか残っていなかった。初回の反省点としては、『図書館活用法』のレジメに頼っていると逆に足をひっぱられてしまいやりにくい。新たにレジメを作り直す大変さはあるが、『図書館活用法』からの引用ではなく、90分で図書館の検索ツールを簡単に説明できるレジメを作るべきだと痛感した。

3.2　2007年度

「今年もお願いします」と昨年同様、黒田先生から依頼があった。昨年度の稚拙な内容にもかかわらずまた依頼してくださった。今年は、前期・後期と2回ある。前期は2年生、後期は1年生だ。出張講義をするのは、私だけではなくレファレンスに携わっている生田図書館員が行う。後期は2クラスに分かれるため、前期・後期あわせると全部で3回あるため、3人で分担した。私は前期を担当することになった。

前期は2年生のクラスであった。昨年同様、1年間は図書館を使っているので、OPACの使い方の復習・ポータルサービスの利用の仕方・山手線コンソーシアムについて・論文検索などを教える。やはり1〜2年生においては、図書や雑誌など基本的な検索の仕方をしっかり身につけ、必要としている資料に確実にたどりつける力をつける事が大事だと思う。インターネットに慣れ親しんでいる世代にとっては、OPACの使い方はこちらが懇切丁寧に教えなくてもある程度まで使えると思うが、効率的な検索の仕方や、目録情報のデータの作り方による検索のコツなどを教える。レファレンスカウンターにくる相談でも「この資料どこにありますか？」「検索したけどでてこないのですが…」というのが多く、一緒に検索してみるとヒットするケースが意外とある。カウンターに相談に来てくれる学生はいいが、所蔵していないとあきらめてしまう学生もいるだろう。そういう

点も踏まえて、しっかりと検索技術は覚えてもらいたい。

今年から先生の新しい希望として、宿題を出して欲しいというのがあった。授業の最後に課題プリントを配布し、次の授業までに先生の研究室へ提出するということになったのだが、課題設定に若干の問題があった。

(1) ある雑誌の最新刊の巻号（何巻の何号）と請求記号を答えなさい。

(2) ある図書を検索し、貸出中の場合は「山手線コンソーシアムの横断検索」を使って、貸出中になっていない大学を答えなさい。

(3) 参考文献を読み解き、この論文が収録されている雑誌の請求記号と巻号を答えなさい。

という 3 題をだしたのだが、今回のように 1 週間後までに提出するとなると、検索した日によって答えが変わる可能性がある課題は NG であった。(1) は最新刊がいつ受け入れられるか不定期のため受入担当者にお願いしてこのタイトルに気をつけてもらうようにした。(2) は山手線コンソーシアム検索を体験してもらいたいと考え設定した問題であったが、いつ貸出中になるか、いつ返却されるかは流動的であり、宿題としては適さないものであった。おかげで 1 週間毎日、検索して答えがどう変わっていくかチェックすることになってしまった。通常、『図書館活用法』では検索実習をしたその場で回答を発表するので、今回のようなケースが発生するということに全く気がつかなかった。後期授業への反省点である。今回は出張講義用にレジメを短く作り直したが、やはり新聞系 DB まで説明すると時間がかなりぎりぎりになってしまう。どの項目に一番力をいれて説明したいのか、さらに改善が必要であった。

後期は、他の二人が担当することになっていたが、諸事情により私ももう一度担当する事になった。今度は 1 年生が対象ということもあり、もう一人の担当の T さんにレジメをお願いした。自分とは違う視点でどういうレジメができあがってくるのか興味があった。

1 年生ということで OPAC の基本的な使い方、ポータルサービスや山手線コンソーシアムの説明、特定の DB にこだわらない論文情報の探し方など、とてもわかりやすいレジメを作ってくれた。「図書館で提供している

DB を使ってこんな事ができるよ」と興味をもたせるような実習もあったため、図書館利用導入への良い授業になったのではないかと思う。1 年生においては、図書館の機能として是非、知っておいて欲しいという部分をわかりやすくピックアップした方が図書館への興味がわき、自分でいろいろ使ってみようという意識がでてくるのではないだろうか。

4　出張講義のメリット

出張講義の良い点は、対象学科が決まっているため用意する例題がそのクラスにあったものにできる。図書館でのゼミツアーなどがそれにあたる。『図書館活用法』ではいろいろな学部・学科・学年が混在するため、説明のレベルをどこに合わせるかで悩む。その点、出張講義やゼミツアーでは学習の進度や要望にあわせて説明内容をオーダーメード的にアレンジできるので、学習支援の一端として先生方にも是非利用していただきたい。出張講義の実施回数が増えることにより、講義内容や図書館員のスキルももっと向上していくと思う。ただ、生田での出張講義の実績は 2006-2007 年を通して 3 回ほどなので、今後も積極的にアピールしていく必要性は感じている。

生田において'93,94 年頃に、農学部教員の希望により OPAC の講習会を 2 回ほど実施したと同僚から教えてもらった。その頃に比べると、ここ数年は図書館員が担当する情報リテラシー教育、図書館ガイダンスは非常に増加している。それは、図書館を「教育支援の場」として積極的に位置づけようという動きもあるが、図書館の資料自体が急激に電子化され同時に利用できる DB も飛躍的に増えてきたため、それらの使い方を教える必要性がでてきたこともあるだろう。2008 年には新しい DB がいくつも導入される予定だ。DB を使う人、使わない人で学習や研究内容にも大きな差がでてくるのではないかと危惧する。配架されている図書・雑誌だけでなく、用意されている DB など積極的に活用し役立てて欲しい。それらを図書館員はわかりやすく教えていければと思う。